

新型コロナウイルス感染症は保育現場にどのような影響を与えたのか —宮城教育大学附属幼稚園におけるアンケート調査から—

溝田浩二*・佐藤みちる**

What Kind of Influence did COVID-19 have in a Childcare Site? : From the Questionnaire
Survey of Miyagi University of Education affiliated Kindergarten

Koji MIZOTA and Michiru SATO

要旨：宮城教育大学附属幼稚園における新型コロナウイルス感染症の影響を把握することを目的として、附属幼稚園の教員を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、園児とのスキップが減少している、保護者対応に難しさを感じている、対応に追われて保育者が疲弊している、といった実態が明らかになった。また、コロナ禍にあっても園児たちの自然との関わりは減少していないことがわかった。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、アンケート調査、宮城教育大学附属幼稚園

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大が続くなか、日本では2020年4月16日～5月27日までの期間、全国に緊急事態宣言が発出された。就学前教育・保育施設等においては休園や登園自粛を求められ、保育・幼児教育の現場はその対応に追われた。また、園児、保育者、保護者の安全を確保しつつ、子どもたちが学び育つ権利をいかに保障することができるのか、非常に難しい課題に直面することになった。長期化する「新たな生活様式」の中で、保育現場はどのような影響を受けたのであろうか。

本研究では、宮城教育大学附属幼稚園（以下、附属幼稚園）における新型コロナウイルス感染症対の影響を把握することを目的として、附属幼稚園の教員を対象としたアンケート調査を実施した。

2. 附属幼稚園におけるコロナ対応方針

附属幼稚園は2020年（令和2年）5月22日、保育開始後の感染防止対策の取り組みの方針を示し、保護者への協力を呼びかけた。それが以下の「保育開始

に当たっての感染防止対策について」という文書であった。

1. 保育中の感染防止対策の取組について

【登園】

- 登園時刻は8:40とします。保護者の皆様は「けんこうきろくカード」を滝のところにある学級ごとのカゴに入れてください。適度な間隔の確保にもご協力ください。
- 検温や「けんこうきろくカード」を忘れた場合は、滝の前で非接触型体温計を使用して検温を行います。その際、37.5℃以上の体温の場合はその場で早退をしていただくこととなりますのでご了承ください。
- 登園時の挨拶のための握手等は行わないようにします。

【朝の集まり】

- 下駄箱のところにある消毒液で、手をしっかりと消毒してから、入室をします。各保育室での登園後の準備はこれまで通り行います。アレルギー等

*宮城教育大学教員キャリア研究機構、 **宮城教育大学附属幼稚園

がある場合は、石けんと流水による丁寧な手洗いを行います。

- 必要なお子さんはトイレへ行きます。トイレ後の手洗いをしっかりと行うようにしていきます。
- 手洗いは、個別のタオルは使わずにペーパータオルで拭くようにします。
- シール帳にシールを貼るときには密集しないように場を設置し、シールは共有しないように一人一人にシールを割り当てます。
- 保育室を可能な限り常時開放し、換気を十分に行います。可能な限り間隔をとった形で集合し、10分以内で行います。室温には十分に気を付け、エアコンや衣服で温度調節を行っていきます。
- 絵本の貸し出しは当面の間行いませんが、貸し出しが始まってからは必ず朝に貸し出しを行い、借りた本は個々の絵本バッグに入れるようにします。返却された絵本はまとめて返却用のかごに入れて寄せておき、消毒が終わるまでは貸し出しはしないようにします。

【外遊び】

- 基本的にはマスクを着用し、手洗いを徹底していきます。
- 荒天の日以外は、基本的に園庭やテラスでの外遊びを行います。固定遊具等でお子様が密集しそうな場所には職員が付き、適度な間隔を保ちながら遊ぶことができるように援助します。
- 外で遊んでいる時間は、保育室の窓を全開にして空気を入れ替えを行います。
- マスクの着用による熱中症を予防するため、こまめな休憩や水分補給の声掛けを行っていきます。

【室内遊び】

- マスクの着用と手洗いを徹底していきます。
- 雨天の場合については、遊ぶ場所を保育室のほか、西遊戯室や東遊戯室、テラスとし、換気を十分に行うことで、密集や密閉を避けるようにしていきます。
- 使った本を置く場所を各学級ごとに設置し、遊びの中で使った本は消毒を行うようにします。
- 相撲などの近距離で組み合ったり、接触したりする運動遊びは当分の間控えるようにします。

□ テーブルを出す場合は、使用前に必ずアルコール消毒をします。

- 制作遊びの場面では、自分ののりやはさみを使うようにしたり、道具を共有する場合には使用した道具を消毒します。のりを使用する際の手拭きのタオルは共用せず、ウエットティッシュ等で対応します。

【片付け】

- 片付けの際に洗い物がある場合には、水を張ったらいを分散して設置し、そこで洗い物をする事で密集を避けるようにします。
- 足を洗った後のタオルの共有を避けるため、着替えと一緒にタオルも用意していただき、個人のものを使用するようにします。

【着替え】

- 密集にならないように着替えのスペースを十分に確保します。また、着替えの服が混ざらないように留意していきます。
- 着替えをする際にマットの共用を避けるようにします。床に座ることが嫌な場合は自分の絵本袋を使用するなど、個人のを代用します。

【お日さまタイム】(今後、通常保育になった場合)

- マスクを着用します。遊びの時間に落としたり、床に置くなどした場合はマスクを交換して着用します。保護者の皆様には予備のマスクを持たせていただきますようお願いいたします。布マスクの場合は持ち帰りますので、持ち帰り用の小さな袋をご用意ください。
- テーブルを出す場合は、使用前に必ずアルコール消毒をします。
- テーブルに並んで座るようにし、対面にならないようにします。また、適宜遊戯室等も利用して、十分な間隔がとれるようにします。
- 制作遊びの場面では、自分ののりやはさみを使うようにしたり、道具を共有する場合には使用した道具を消毒します。のりを使用する際の手拭きのタオルは共用せず、ウエットティッシュ等で対応します。

【お弁当】(今後、通常保育になった場合)

- 食べる前に石けんによる手洗いとアルコール消毒をします。
- テーブルをアルコール消毒します。
- テーブルに並んで座るようにし、対面にならないようにします。また、適宜、遊戯室等も利用して、十分な間隔がとれるようにします。

【帰りの時間】

- 換気を十分に行い、可能な限り間隔をとった形で集合し、10分以内で行います。
- 読み聞かせを行う場合は、担任とお子様の距離が近くなりすぎないようにします。
- 「けんこうきろくカード」は、毎日返却いたします。

【降園】

- 帰りの準備が終わったら、可能な限り短い時間でさようならの挨拶をします。
- 園庭で担任の連絡を行った後、保護者の皆様と一緒に降園になります。

【降園後】

- 保育室は換気を行いながら、毎日清掃を行います。
- 机やイス、ドアの取っ手、固定遊具などを毎日消毒します。

2 その他

- 附属幼稚園の保育においては、子どもたちの「遊び」は大変重要なものであり、遊びの中でのお子様同士の接触はどうしても避けることができないと考えております。その上で感染防止のためには、①必ず手洗いをしっかりとすること、②基本的にマスクは着用させ、とらないようにすること、③友達のマスクには触れないようにすること以上3点に取り組んでいきます。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

3 今後の予定について

- 誕生会は「密閉」「密集」「密接」を避けるという点から、当面の間行わないことといたしますが、実施が可能になり次第、内容を工夫しながら行う予定であります。
- 「ふよう七夕夏祭り」は、室内に多人数が集まる行

事であることと、この時期に「3密」を避けて行うことはできないとの判断から、今年度は中止とさせていただきます。

- 「親子ふれあいレクリエーション」は、6月の時点で実施することは新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から難しいと考えます。しかし今後、実施が可能な状況と判断できるようになれば実施する予定であります。ただし、状況によっては、今年度は中止とさせていただく可能性もありますことを、ご了承ください。

附属幼稚園では上記の文書に記載された方針に沿う形で、感染対策に十分に配慮しながら2020年度の保育活動を進めてきた。

3. アンケート調査**3-1. アンケート調査の方法**

こども環境学会が2020年夏に実施したアンケート調査『コロナ禍状況の保育所・幼稚園・認定こども園における休園・登校自粛への対応とこどもたちへの影響に関する調査』を参考にして、以下に示すアンケートの質問項目を作成した。2021年（令和3年）1月12日（火）～1月27日（水）の期間、附属幼稚園の教員を対象としてWebアンケートを実施し、計10名から回答を得た。

3-2. 質問項目と回答結果

質問項目としては、「コロナ禍により園児への対応で変わった点について（問1）」、「コロナ禍における休園あるいは分散登園期間が園児たちに与えた影響について（問2）」、「現在直面している問題点について（問3）」、「附属幼稚園における保育活動の変化について（問4）」の4つに分類して作成し、それぞれの質問について、①非常にそう思う、②そう思う、③あまりそう思わない、④全くそう思わない、のいずれかを選択してもらった。また、その番号を選択した具体的な理由を記述してもらった。以下にアンケート調査の回答結果を示す。

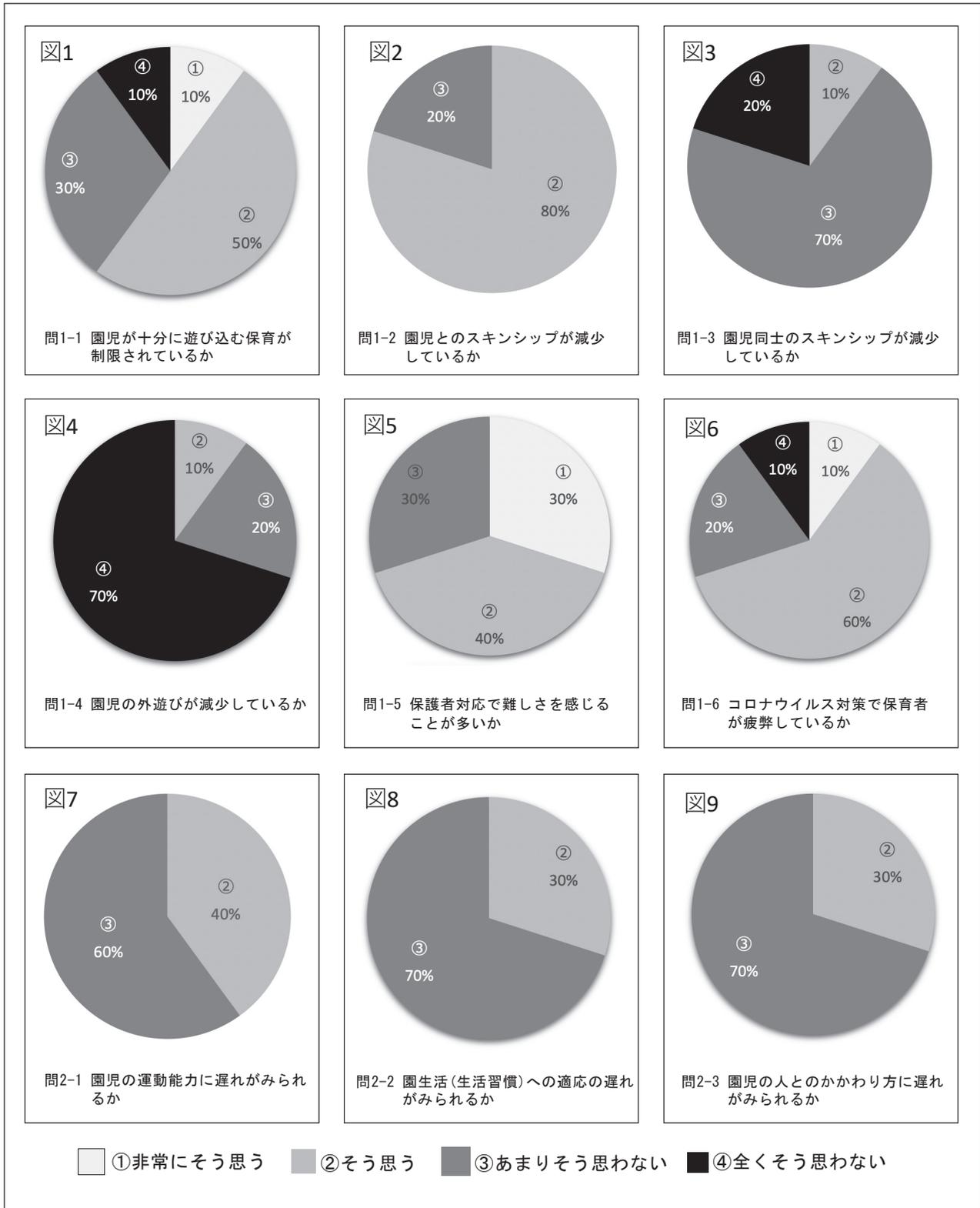


図1-9. アンケートへの回答結果

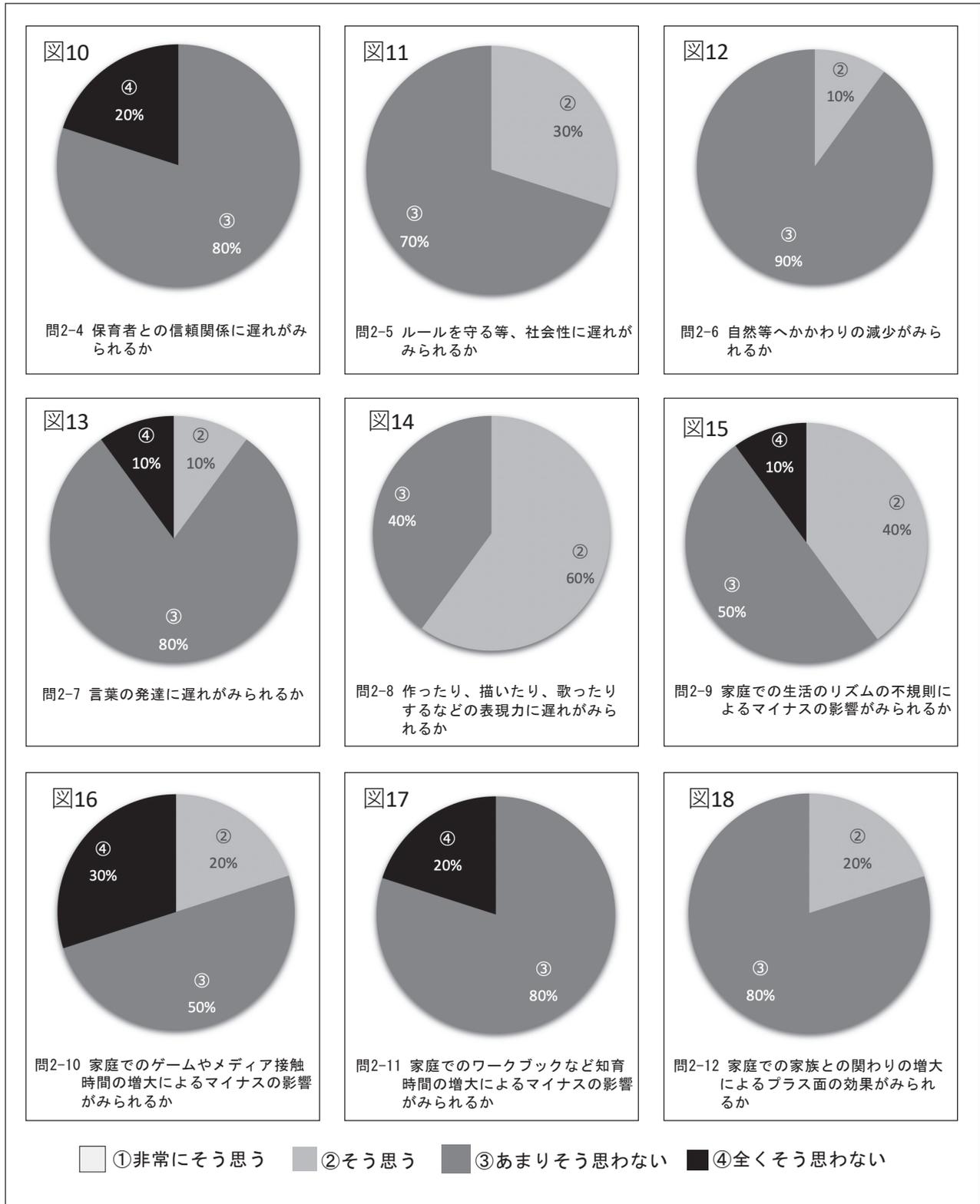


図10-18. アンケートへの回答結果

問1 新型コロナウイルス感染症の流行により、園児への対応で変わった点がありますか。

問1-1 園児が十分に遊び込む保育が制限されているか (図1)

[回答] ① 10% ② 50% ③ 10% ④ 10%

[具体的には] マスク着用で息が上がる／食事・食育 (ができない) ／道具の共有を避けることで制作コーナーを作りにくくなった／食を伴う保育ができなくなった／共有して使わなければいけないものは出さないようにしている／一年を通しての遊びの時間が短く経験が不足している

問1-2 園児とのスキンシップが減少しているか (図2)

[回答] ① 0% ② 80% ③ 20% ④ 0%

[具体的には] 感染症予防のため教員からのスキンシップを控えているが、子どもたち自身も自ら意識して気をつけている様子が散見される (ex: ハイタッチは手のひらを合わせるのではなく肘を使って行う等) ／あまりスキンシップをとらないようにしている／距離をとらないといけないので／子どもと触れ合う回数や時間が多くならないように意識している／ディスタンスの問題から減少傾向／3歳児は自分から密着してくるので、来た場合は受け入れるがこちらから積極的に抱き寄せたり、肌を直接触ったりしないように気をつけている

問1-3 園児同士のスキンシップが減少しているか (図3)

[回答] ① 0% ② 10% ③ 70% ④ 20%

[具体的には] なし

問1-4 園児の外遊びが減少しているか (図4)

[回答] ① 0% ② 10% ③ 20% ④ 70%

[具体的には] 休園中のステイホームで身についた生活習慣や室内遊びの習慣が影響しているのか、外遊びが大好きだった幼児も室内で遊びたがることがあった／アニメやゲームの影響をより強く受けているのか「早く帰ってゲームがしたい」と言い、幼稚園の遊びに興味をもてない幼児も散見された

問1-5 保護者対応で難しさを感じる人が多いか (図5)

[回答] ① 30% ② 40% ③ 30% ④ 0%

[具体的には] 感染症を心配してある程度の制限を望む保護者と、保育の機会の充実を望む保護者とがあり、対応の難しさを感じている／幼稚園の感染症対策に対する方針を理解いただけるように配慮していく必要がある／個人の思いに差がある／それぞれの保護者ごとに対策に対する考え方や望む保育に差があり、どこまで実施するか判断が難しい／感染症対策への意識や保育に望むことに個人差がある／意識やそれに伴う対応の仕方 (心構え) にずれが生じている／保護者が気になっている要望にすべて答えることが難しいが、その点を理解してもらったり、幼稚園での対応を理解してもらったりすること

問1-6 コロナウイルス対策で保育者が疲弊しているか (図6)

[回答] ① 10% ② 60% ③ 20% ④ 10%

[具体的には] 毎日の消毒作業や昼食時の準備等、様々な場面で負担が増えていると感じる／降園後に行う消毒作業が負担に感じることがある／行事計画も感染症対策を念頭に入れておく必要があり、例年通りにできないことがほとんどだった／日常の保育をはじめ行事等で常に感染症対策をとった新しいやり方を検討しなければならないこと／保育や行事の在り方を見直すことが多々ある／意識に差はあるものの気遣いの面で感じる／行事の組み換えが多い

問2 コロナ禍における休園あるいは分散登園期間、園児たちにどのような影響を与えたと思いますか

問2-1 園児の運動能力の遅れ (図7)

[回答] ① 0% ② 40% ③ 60% ④ 0%

[具体的には] 体を動かすことで得られる感覚を十分に得られていないのではないかと思う／親子レクリエーションで特に園児の運動能力の遅れを感じた／例年に比べて活動量が少ない

問2-2 園生活 (生活習慣) への適応の遅れ (図8)

[回答] ① 0% ② 30% ③ 70% ④ 0%

[具体的には] 集団生活のリズムになかなか合わせられない幼児が散見された／6月から登園が始まった当初、分散登園で一日おきの登園となったため、生活のリズムをつくれぬという保護者からの話がきかれた／経験が足りない

問2-3 園児の人のとのかかわり方の遅れ (図9)

[回答] ① 0% ② 30% ③ 70% ④ 0%
 [具体的には] 経験が足りない／(3歳児なので当然といえば当然だが) 入園当初は初めて同世代の子どもと関わる幼児も多く、自分以外の子どもがいるということから教えた。保護者曰く、普段だと意識して行くようにしていた児童館や支援センターに行くことができなくなったので、友達のことを忘れてしまったと言っていた

問2-4 保育者との信頼関係の遅れ (図10)

[回答] ① 0% ② 0% ③ 80% ④ 20%
 [具体的には] なし

問2-5 ルールを守る等の社会性の遅れ (図11)

[回答] ① 0% ② 30% ③ 70% ④ 0%
 [具体的には] 経験が足りない／関わり方の減少ともなって

問2-6 自然等へかかわりの減少 (図12)

[回答] ① 0% ② 10% ③ 90% ④ 0%
 [具体的には] 春の時期の戸外遊びが減ったのは残念だった

問2-7 言葉の発達の遅れ (図13)

[回答] ① 0% ② 10% ③ 80% ④ 10%
 [具体的には] 経験が足りない

問2-8 作ったり、描いたり、歌ったりするなどの表現力の遅れ (図14)

[回答] ① 0% ② 60% ③ 40% ④ 0%
 [具体的には] みんなで歌を歌うことに少し配慮が必要なため／経験が足りないことに加えて歌うことへの制限がある／歌う機会が少なくなっていると感じる

問2-9 家庭での生活のリズムの不規則によるマイナスの影響 (図15)

[回答] ① 0% ② 40% ③ 50% ④ 10%
 [具体的には] 家族に合わせて夜更かしをしたり、寝坊をする幼児も見られた／6月から登園が始

まった当初、分散登園で一日おきの登園となったため、生活のリズムを作れないという保護者からの話がきかれた／休み明けの登園渋りも若干あった

問2-10 家庭でのゲームやメディア接触時間の増大によるマイナスの影響 (図16)

[回答] ① 0% ② 20% ③ 50% ④ 30%
 [具体的には] ステイホーム中に初めてゲームを経験した幼児もあり、夢中になって遊んでいたようだった。中には、明らかに幼児向けの作品ではないものに夢中になる様子も見られ、幼稚園での遊びにも影響した

問2-11 家庭でのワークブックなど知育時間の増大によるマイナスの影響 (図17)

[回答] ① 0% ② 0% ③ 80% ④ 20%
 [具体的には] なし

問2-12 家庭での家族との関わりが増大によるプラス面の効果 (図18)

[回答] ① 0% ② 20% ③ 80% ④ 0%
 [具体的には] 保護者の方がゆっくりと確実に身辺自立を教えてくださいとお願いしていると思う

問3 現在、お困りの点、お気づきの問題点等はありませんか (図19)

- ①園児の指導よりも対策が中心となっている
- ②対応に追われ職員の負担が増加している
- ③職員の離職が懸念されている
- ④職員の確保が困難となっている
- ⑤財政面から園の存続が危ぶまれている
- ⑥必要な備品の確保に支障がある
- ⑦保護者対応
- ⑧その他

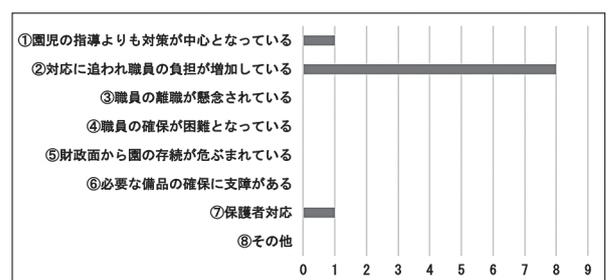


図19. 回答結果 (現在直面している問題点)

問4. 附属幼稚園における保育活動の変化について、
お気づきの点を教えてください

問4-1「好きな遊びの時間」の変化について

① 園児どうしの関わりについて

[回答] 分散登園により園児同士の名前と顔が一致せず、関係性が深まるまでに時間がかかった／分散登園の際、クラスをグループに分けてローテーションで組み合わせを変えながら登園していたが、仲良しの友だちとなかなか遊ぶことができなくなり、登園渋りに発展した幼児がいた／マスクを着けていることにより顔を認識できないと感じた／特に新入園の園児は、同じクラスや学年の園児同士の名前と顔が一致するのに時間がかかった／分散登園だったことで、同じグループの友達の名前を覚えるのは早かった。グループの組み合わせが変わった時には、もっと友達がいることに気づき、喜ぶと同時に以前同じ日に遊んでいた友達と会えず、遊びが続かなかった／同じ遊び場でも別々の遊びをしていた

② 環境構成について

[回答] モノの共有をなるべく避けるようにした／モノの共有はできる限り避け、個人所有のモノがあればそれらをしようさせていた／モノを共有しないように配慮している／道具は共有しないようにさせた／密にならないような空間づくりを心がけた。モノの共有はしないようにさせたが、共有を避けられないものもあった。(セロハンテープ、スズランテープ、自由に使ってもいい紙類など)／あまり変化はないが、経験不足(幼稚園での生活や友達との関わり、遊びのスキル等)の点は否めない

③ 遊びについて

[回答] 遊びの始まりが遅れたことで、例年の夏と比較して夏の遊びの様子が遅れていた。公開研究会に向けて焦ることが多かった／休園期間が長くなったため、子どもたちの遊びの発展や深まりが1～2ヵ月遅れているように感じられる／分散登園だったことで年度初めはひとりひとり丁寧に関わることができ、遊びを見守ったり、遊びに誘ったりすることができた

④ その他(感染症対策をとりながらもより良い保育ができるように工夫した点、環境構成で配慮した点など)

[回答] 休園期間中に園児や保護者に向けてホームページにて期間限定で配信した動画が、園生活に期待をもたせたり、手洗いやうがい等の感染症対策を周知するのに有効であった／モノを共有しないように、道具を増やして遊びの保証をした。しかし貸し借りも学びなので、その点については十分ではなかった。屋外での活動を増やし、密にならない環境で遊びを充実できるようにした

問4-2 食育の変化について

① 食育の実施状況

[回答] 園庭でとれた梅の実を使った梅ジュース、焼き芋、スイートポテト／計画予定したことができなかった／冬休み前までは可能な限り手指消毒やマスクの着用等の工夫をして行ってきたが、冬休み後は実施が難しい状況になっている／12月以降実施していない／実施していない／通常の1/4程度／12月前まではよく行っていた

② 感染症対策に配慮した点

[回答] 手洗い・消毒を徹底し、なるべく直接手に触れないようにした／手洗いと手指消毒、道具の消毒、食事の際のパーテーションの活用／手指消毒、マスクの着用、直接食物に手を触れないような工夫(ビニール袋に入れたものを袋の上からもむ等)／消毒の徹底や共有を減らすなど／手洗い、消毒、マスクの着用／実施していない／モノを共有しない工夫／消毒をする、教師が配る

問4-3 園生活全般における変化について

① 集まりについて

[回答] 前を向いて一方向に集まることが多くなった／一斉での歌唱は行わない。可能な限り間隔をとる。マスクの着用／絵本を見るときには隣同士の子と間隔が空くようにした。できる限り一方向を向いて座るようにした／距離をとって同じ方向を見て座る／前を向いて座る／あまり歌わない／集まるときは必ずマスクを着用する

② 昼食について

[回答] テーブルは2人掛けにし、真ん中にパーテーションを設置。昼食後の歯みがきは行わずうがいのみ実施(水道の端と端で)／4人掛けのテーブルにパーテーションを設置していた。1月以降は4人掛けのテーブルに2人が着席し、パーテーションを設置している。保育室と遊戯室を使い、食事中のクラスの定員を半分にしている／テーブルの数が増え、配置片付けに時間がかかった／可能な限り対面にならないようにする。会話を極力行わないように指導する。パーテーションをテーブルごとに設置する／4人1テーブルから2人1テーブルに変更／1つのテーブルに座る人数を減らした(2人)／パーテーションを置くようにした／テーブルの距離を離す。飛沫防止のシートを使用する／テーブルに座る幼児の数を減らす、密を避ける／テーブルの数を増やし座る人数を減らした。マスクを外すタイミングを「いただきます」の挨拶をしてからとし、食べ終わったらすぐに着用するように声掛けている

③ 身支度、手洗いの指導等について

[回答] 手洗いは使い捨てのペーパータオルを使用する／ウォールポケットを活用し、シールやお便りを個人管理にした。園庭帽子やコップは毎日持ち帰り、幼稚園で使用したらすぐにリュックに戻すようにした／園庭帽子はロッカーには掛けず、毎日持ち帰り。手洗いはペーパータオルで手を拭く／シールを個人持ちにした。マスクケースを準備した。園庭帽子は自分のリュックにしまってお持ち帰るようにした／個人持ちを多くし、共有するものをなくした／手洗いの方法を水道に掲示した

問4-4 その他(※問4-1～問4-3以外で、園生活、保育での変化、配慮した点などがあればお教えてください)

[回答] マスク入れ、マスク常時着用／年度初めからマスク着用だったので口元が見えず、だれが話しているのかを把握するのに時間がかかりキョロキョロ見回してしまう場面が多かった。朝の受

け入れ時など、一人一人しっかり挨拶するなどして声を聴き分けできるようになった

4. 考察

休園・登園自粛期間終了後の子どもの変化について、「影響がみられる(「そう思う」の割合が高い)」と回答があった項目は、園児とのスキンシップ(図2)、保護者対応(図5)、保育者の疲弊(図6)であった。コロナ対応のために園児とのスキンシップの機会が減少する一方、保護者との対応に難しさを感じている保育者が多く、保育者たとの疲弊が大きいことが明らかになった。

逆に「あまり影響がみられない(「そう思わない」の割合が高い)」と回答があった項目は、園児同士のスキンシップ(図3)、外遊びの時間(図4)、園生活への適応具合(図8)、人とのかかわり方(図9)、保育者との信頼関係(図10)、社会性の遅れ(図11)、自然とのかかわり(図12)、言葉の発達(図13)、家庭でのゲームやメディア接触時間の増大によるマイナスの影響(図16)、家庭でのワークブックなど知的時間の増大によるマイナスの影響(図17)、家族との関わり方の増大によるプラス面の効果(図18)などである。著者らは2019年度に附属幼稚園の園庭の樹木調査を行い(溝田ほか、2020)、その環境教育への活用について共同研究を進めていたことから、コロナ禍でも園児たちの自然との関わりが減少していなかったという結果に胸をなでおろした。

また、十分に遊び込む保育ができていないか(図1)、運動能力に遅れがみられるか(図7)、表現力に遅れがみられるか(図14)、家庭での生活リズムの不規則によるマイナスの影響がみられるか(図15)といった項目では意見が分かれた。

「現在、困っていること」としては、多くの保育者が「対応に追われて職員の負担が増加している」と回答した。コロナ禍で保育現場の負担が多様化、増加の傾向があり、保育者たちが疲弊している現状が浮き彫りになった。長期化する「新たな生活様式」の中で、こうした実態を周囲がきちんと理解し、保育者をサポートしていく体制づくりが求められている。

謝辞

本研究の機会を与えていただいた附属幼稚園長の木下英俊先生をはじめ、アンケート調査にご協力いただいた附属幼稚園の教職員の皆様、Web アンケートの作成にご協力いただいた教員キャリア研究機構の斎藤有季さんに厚くお礼申し上げます。本研究は本学教員キャリア研究機構で進めているプロジェクト研究「新型コロナウイルスに対応した環境教育推進のためのガイドライン作成—附属校園との連携、ICTの活用をとおして（2020年度～2021年度）」の一環として実施された。

引用文献

溝田浩二・宍戸佳央理・片平みちる，2020．宮城教育大学附属幼稚園の樹木とその環境教育への活用，宮城教育大学環境教育研究紀要，22: 31-38.